

阿賀野市立吉田東伍記念博物館

友の会通信

2022-2023

No.2 (通巻86号)

2022.12.1発行

■ 目次	博物館開館25周年記念 企画展&市民文化講演会	1
	開催報告 ミニ研修旅行「阿賀野市歴史民俗資料館を訪ねて」	2
	会員随想 / 友の会伝言板(その1)	3
	訃報 / 友の会伝言板(その2) / 編集後記	4

発行：吉田東伍記念博物館友の会 〒959-2221 阿賀野市保田1725-1 (阿賀野市立吉田東伍記念博物館内)
TEL 0250-68-1200 FAX 0250-68-5016

H P <https://togo-tomonokai.com/>

E-mail info@togo-tomonokai.com

Twitter @y_togo

博物館開館25周年記念 企画展&市民文化講演会

阿賀野市立吉田東伍記念博物館は、平成9年(1997)9月17日に北蒲原郡安田町の町立博物館として開館し、令和4年度で開館25周年を迎えました。記念の企画展&市民文化講演会(友の会協力事業)をレポートします。

企画展

長井一禾とその息子大有

10月8日(土)から、明治・大正・昭和期に活躍した阿賀野市ゆかりの日本画家、長井一禾(いっか)と息子・大有(たいゆう)の作品展が始まりました。博物館2階の会場には、一禾が描いた様々な表情のカラスや、京都画壇の新進として期待された大有の日本画などが展示されています。作品は、前期(12/18まで)と後期(1/5~2/26)で入れ替わります。吉田東伍とも接点がある親子の画業を知ることができる貴重な機会です。友の会企画のギャラリートークも開催しますので、ぜひご来場ください。

ギャラリートーク(60分程度)

前期:12月10日(土) 午後2時 後期:1月22日(日) 午後2時
※申し込みは不要です(参加ご希望の方は当日直接会場へお越しください)。

市民文化講演会

古地図と地形図から読む阿賀野川

ほんろう
ー洪水に翻弄された村々ー

講師 金森 敦子氏(歴史家、ノンフィクション作家)



10月23日(日)午後2時から、安田交流センター風とぴあを会場に開催されました。参加者は76名。講師は金森敦子氏、演題は「古地図と地形図から読む阿賀野川ー洪水に翻弄された村々ー」です。

地形図の分析と現地踏査の成果を活用した金森さんのお話からは、水害に立ち立ち向かう先人たちの知恵と努力が浮かび上がってきます。災害史研究をライフワークの一つとした吉田東伍を彷彿とさせる講演を参加者一同が熱心に聞き入りました。



開催報告

ミニ研修旅行「阿賀野市歴史民俗資料館を訪ねて」

9月19日(月・祝) 午前10時30分から、阿賀野市歴史民俗資料館を見学するミニ研修旅行を開催しました。参加者は8名です。同館は、平成29年3月に閉校した旧山手小学校を活用して、令和3年4月に開館しました。旧五頭の麓のくらし館(かつての出湯小学校の旧笹神村郷土資料館)の展示資料も移設され、瓦産業の歴史や吉田東伍をはじめとする「ふるさと阿賀野の人物群像」を紹介するコーナーも設けられています。

今回は、開催中の企画展「縄文人と算数・数学」と、1階の各旧教室とロビーの常設展示を1時間半ほどかけてじっくりと見学しました。考古遺物や民具の展示では、参加者からのミニ解説も飛び出して、少人数ならではの和気あいあいとした談論で盛り上がりしました。

今回の研修旅行は、現地集合・現地解散のスタイルで開催しました。ウイルス禍における友の会活動の継続を模索する「ミニ版」での開催です。身近な地域を歩くことは歴史地理研究の原点です。博物館周辺の施設や史跡を探訪する機会を持つことも大切と、あらためて認識する機会になりました。第2弾も計画中です。ぜひご期待ください。



「吉田東伍記念博物館」友の会会員となって

友の会会員 五十嵐 正美

今年の3月末で勤め人の仕事を終えて、気ままな日々を送れる身分となりました。

そんな折、友の会へのお誘いをいただきました。地元に住ながらも吉田東伍もその博物館も存在を知っている程度であり、そもそも「学者」とか「博物館」とか聞いただけで、身を遠ざける方でしたので、思案したところでした。

それで、友の会の活動についてよく聞いてみると、吉田東伍の足跡を土台として、幅広い文化活動を行う地域のよりどころ、人の集う場所なんだ、ということでした。

今の時間を持て余している身にとっては、人との交わりほど色々なことを得られる良い場所はないと思い、参加させてもらうことにしました。

話は変わりますが、我が家に自由を愛した李白の「山中問答歌」の書かれた屏風があります。(注：李白の自筆であれば大変なお宝ですが、李白の詩を誰かが書いた屏風です。)

それは「どんな理由があってこんな山奥に住んでいるのか。私は笑うだけで答えない。ここにいるだけで、心が落ち着くのだ。桃の花びらを浮かべて流れる川は遠くはるかに流れていく。」という内容です。

仕事に追われている頃は、退職したらこんな境地で過ごしたいなと思っていました。

吉田東伍の生家の苔むした庭を眺めながら古に思いを馳せていると、そんな境地になるような気がします。

ということで、会員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

友の会伝言板 その1

- 10月9日(日)午前10時から、友の会運営委員会を開催しました。市民文化講演会をはじめとする令和4年度下半期事業の企画・運営や、来年度の友の会設立25周年記念事業について協議を行いました。友の会では会員の皆様の意見を取り入れながら、よりよい会の運営をめざして努力を続けています。ご意見などございましたらぜひ事務局までお寄せください。



訃報

吉田東伍記念博物館友の会の初代会長・藤田正義氏が8月に逝去されました。藤田氏は、当会設立の平成10年4月から2期4年にわたって会長をつとめられ、草創期の活動を牽引されました。長く教職に従事するかたわら、『安田町史』の執筆や『五頭郷土文化』誌への寄稿など、歴史研究にも数多くの業績を残され、平成14年1月の当会第4回研究発表会では「明治以降の教育制度・行政区域の変遷について」のテーマで講演をされています。ここに生前のご厚情に深く感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。なお、ご逝去にあたりご遺族より当会に対しまして多額のご寄附をいただきました。あわせてご報告いたします。

(友の会会長 長谷川明一)

友の会伝言板 その2

- 博物館、友の会、友の会天文部の最新情報は **ホームページ** や **SNS** でご覧ください。

※10月8日の博物館 Twitter (@y_togo) より

吉田東伍記念博物館【企画展（前期）から】日本画家長井一禾は陶芸にも才を発揮しています。㊦は長井一禾が作って吉田東伍に直接プレゼントした狛犬形の香炉（陶製）白泥を手づくねで成形し緑釉をかけて焼成しています。底面に「一禾」の署名（描き印）があります（高さ13.5cm）。



- 新規会員を募集しています！**ご近所、ご家族、ご友人に入会のお声がけをお願いします。
- 原稿を募集しています！**『友の会通信』の「会員の研究ノート」「会員随想」「友の会伝言板」のコーナーへの投稿をお待ちしています。詳しくは友の会事務局までお問い合わせください。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、友の会行事への参加及び博物館へのご来館の際は、マスクの着用、手指の消毒にご協力ください。発熱や咳などの症状がある方は参加・来館をお控えください。

編集後記／

開館25周年を記念した市民文化講演会は、悪天候にも関わらず、申し込みをされた方全員が出席されました。長く友の会活動を行っていますが初めての経験でした。当日は中越大震災の発災日。自然災害とどのように向き合っていけばよいのか。歴史に学ぶことの大切さを考えるひとときになりました。令和4年もまもなく暮れていきます。会員の皆様、良いお年をお迎えください。

(事務局T)



「吉田東伍生誕之地碑」近影(令和4年10月30日撮影)